

クラフトワークショップ体験を日常化させるための通年プログラムへの試みができた

勝山町並み・体験クラフト市 実行委員会

活動の目的

2013年より行われている本イベントで形成された、ものづくりのネットワークをさらに拡張させて、地域内で年間を通して、ワークショップやものづくりの体験ツアーが可能な環境を整えることが必要と考えた。今年は、イベントとして、秋の2日間のみで行うのではなくそれ以外の通年プログラムへの以降となる新しいプログラムが必要と考えイベント以外の日程でプログラムを行った。

活動の内容及び経過

プログラムとして地域の産業・歴史・自然・文化に根ざした内容が今後の持続可能な活動に繋がると考えて、新しく竹のプログラムを別途行った。その活動は今後のハブ施設としての発展を模索している2019年5月に新しく開設されたCreation Base FUNAYADOで行うことができた。また、地域でのものづくり文化継承のためには今後若者への文化継承と作り手としての活動を、ここ勝山にて行うことが大切と考え、今まで運営のサポートでの関わりがあった若者世代に作家アシスタントという役割を与えて、さらに踏み込んだ作家とのやり取りを行った。

活動の成果・効果

新しいプログラムについては、竹のプログラムとして地元竹細工作家の指導の下、竹の植生や伐採なども体験できる内容を行った。これは竹をものづくりワークショップの素材として取り扱う今までのかたちから、その背景も含めてワークショッププログラムとして盛り込む試みであり、竹を通して地域の特徴である里山の様子や、竹林整備の必要性やその大変さなどを含めて参加者に提供することが可能となった。その結果、参加者も非常に多く、参加者からも非常に高い満足度を得ることができた。参加者動向をみると、岡山市や山陰からの参加がみられて、このようなプログラムの関心が高い地域分布を得ることも可能となった。

若者への訴求については、学生をターゲットとして岡山県立大学・倉敷芸術科学大学・吉備国際大学の教員の方々に現時点での勝山の活動と今後の方向性についてのご説明をさせていただく機会を設けて、意見交換を行うとともに、実際にものづくり活動についての参加を行う学生の募集を行った。その結果、希望の学生が上がり、湯原のガラス工房豊本さまのアシスタントとして、準備段階から参加をして、実際のものづくり作家との交流と、体験を行うことが可能となった。



今後の課題と問題点

個々のプログラムについては葉草や苔さらに茶摘み・草木染・和紙づくりなども今回の竹の学校のようなプログラムに発展できる可能性が大いにあると考えている。

学生募集については倉敷芸科大学や吉備国際大学については打診を行っているが、インターンや授業とのタイアップも有効であると考えている。今回は地元3大学への局所的なアプローチを行ったが、NPOや一般社団法人という受け皿ができつつある状況下において、希望学生の窓口として機能していくことにより、インターネットやSNSによる発信も含めて、広く面での募集を行い、母数の拡大に努めることが大切であると考えている。

- 代表者：加納容子 ●所在地：真庭市勝山
- TEL：0867-44-2013 ●E-MAIL：yonkarari@gmail.com
- URL：https://www.facebook.com/katsuyamacraftichi/
- 設立年：2013年 ●メンバー数：8名